

地域連携し6次化を

栃木県で
シンポジウム
地域資源の活用提言

【とちぎ】栃木県、県農業振興公社、県産業振興センター、フードバレーとちぎ推進協議会は23日、宇都宮市で「農業の6次産業化シンポジウム」を開いた。約200人が参加し、講演やシンポジウムを通して、地域で6次産業化を戦略的に進める方策などを探った。

農林中金総合研究所基礎研究部主席研究員の室屋有宏氏が「地域からの6次産業化」とつながりが創(つく)る食と農の地域保障」のテーマで講演。6次化の土台は「地域」と強調。従来の拡大・成長の経済から転換し、大手企業ができないこと、お金で買えない地域資源を活用することが重要などと指摘した。

全国的事例も踏まえ「6次化に取り組み関係づくりが重要。地域資源の掘り下げ、地域と一体化した仲間づくり、異業種との対話・交流などに時間をかけ取り組むべき」とした。

県6次産業化実践アドバイザーの松本謙氏をコーディネーターとするパネルディスカッション「地域でつながりを持つ

6次産業化」には、関係者の長谷川良光氏、とちぎ農産加工研究会の野口一樹氏、社会福祉法人パステルの阿久津圭司氏が参加。室屋氏をアドバイザーに討論した。

「拡大したい」などと語った。

(株)農林漁業成長産業化支援機構の大多和蔵社長は、6次化を支援する「農林漁業成長産業化ファンド」の概要を説明した。